

研究通信 No.2

東京都立墨田特別支援学校

令和5年8月31日

夏季休業中に、本校の外部専門員による研修会を行いました。

臨床発達心理士 松村 裕美先生

「太田 Stage、S - M 社会生活能力検査、Vineland- II の各種検査方法・内容について」

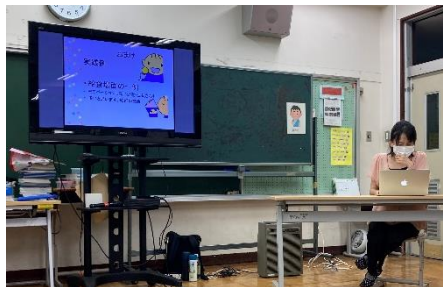
各検査内容について知るだけでなく、児童・生徒の実態に応じたアセスメントの活用方法まで具体的に学ぶことができました。課題に即した適切な支援方法を考える機会になりました。



言語聴覚士 小池 真琴先生

「一人一人に応じたコミュニケーション手段の検討」

ことば・コミュニケーションの発達のために、子供をよく観察し、AAC（※1）を複合的に使用しながら変化に応じて柔軟に対応を変えること、そして何よりも、表現すること・伝わることの楽しさが育っていくようにしてほしいというお話でした。



臨床発達心理士 大澤 ちひろ先生、赤坂 杏実先生

「児童・生徒の発達に応じた『学びに向かう力』を育てる」「生徒の思考の特徴の活かし方」

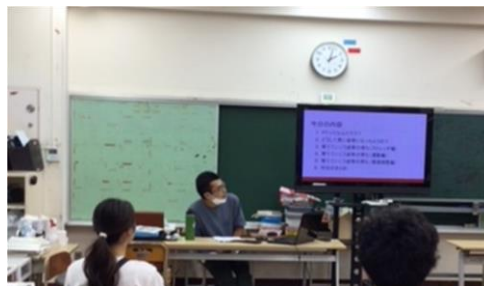
前半は大澤先生より、発達の段階によって異なる学習に向かう姿勢を、事例をあげて分かりやすく御講義いただきました。後半は赤坂先生より、WISC-IV 知能検査と K-ABC II の検査について御講義いただきました。



理学療法士 嶺田 和明先生

「姿勢について考えてみよう。座位姿勢を中心に！！」

実技を交えながら、正しい姿勢とはどんなものなのか、なぜ姿勢が崩れてしまうのか、姿勢を育てていくためのストレッチやトレーニング、座位保持をしやすくするための環境整備のツールや方法など、様々な角度から姿勢について御講義いただきました。



(※1) 拡大・代替 コミュニケーション

8月1日午前には、下山直人先生をお招きして全校研修会が行われました。

「学習指導要領を踏まえた授業改善～各教科等での育成すべき資質・能力（3つの柱を考える～）」

「何ができるようになるのか」子供一人一人の資質・能力を育むために、学習指導要領を学びの地図とし、各教科の学習が子供達の生活を豊かにするものになるように授業づくりをしていく大切さ、育てたい力を明確にするために観点別の習得状況を評価し、目標を実現する授業の作り方について、具体的な実践例を交えながらご講演いただきました。これを踏まえ、1月の研究発表会に向けて各教科、授業研究を進めていきます。



8月1日午後には、東京都特別支援教育研究会の夏季研究大会が行われ、午後の分科会（保健・体育）では、本校を代表して土屋智美先生が発表を行いました。

「生活の中で生きる「課題解決に向けた思考」を身につける。」

高等部3年生のダンスの授業を事例に、学習を進めていく過程で課題解決に向けた思考をするための具体的な実践例を発表しました。助言者の先生からは、良い授業にしていくために、①やることが分かる②やり方が分かる③分かる・できる④結果の流れ、を大切にする事、そしてそのすべての過程で子供たちが「この授業をやりたいか？」という視点を大事にしながらか組んでいくべきであるとのアドバイスをいただきました。

